

【編集元】民主党三重第2区総支部 衆議院議員中川正春事務所

E-mail :

g03063@shugiin.go.jp

三重／〒513-0013 鈴鹿市国分町453-7 TEL:059-373-3933/FAX:059-374-3088

東京／〒100-8981千代田区永田町2-2-1衆議院第一議員会館428号室 TEL:03-3508-7128/FAX:03-3508-3428

○もっと民主党！夏の対話集会三重2区

9月10日(日)19:00～ 四日市文化会館 第3ホール

<テーマ>県政の課題－環境税をめぐる

学童保育とコミュニティー

民主党代表選挙と秋の国会運営について

皆様のご参加、お待ちしております。

問合せは三重事務所TEL:059-373-3933まで。

○鳥インフルエンザ、新型ウイルス発生の可能性。危機管理を。

「新型のインフルエンザの出現が間近になってきた。世界で一億人以上の死者を出した過去のアジア風邪スペイン風邪の大流行は、皆、鳥インフルエンザの蔓延が発端であった。最近の報告では、インドネシアや中国を中心に、野鳥のほとんどは、インフルエンザに罹患していると見ていい。さらに、人間への感染ではインドネシアを中心に、今、世界で240人が鳥インフルエンザにかかり、120人が死んだ。現在ではまだ人間には感染しにくいと言う。しかし、H5N1型ウイルスがいつ変異して、人間から人間に容易に感染する状態になるかは、時間の問題。すでに、そうしたウイルスになっている可能性もある。この悪性ウイルスが世界で大流行することは確実とも言える状況で、適切な危機管理と対策を怠れば、日本でも少なく見積もって140万人の人が死ぬ。

アメリカでは、すでにブッシュ大統領が危機管理宣言を発動して、タミフルの備蓄はもちろん、プロトタイプワクチンの製造や、各自治体やコミュニティーへの対応マニュアルに基づく具体的な国民の動員態勢を確立し始めた。ヨーロッパも然り。それにもかかわらず日本の厚労省は、こうした真実の情報を国民に知らせる努力をしていない。こんな時こそ、政治家がリーダーシップを発揮して欲しい。」

厚労省国立感染症研究所の岡田先生が、切羽詰まった危機感で、目に涙を浮かべ、私たちに説明してくれました。戦争で落とした命より遥かに大きな犠牲者を出す可能性のある大問題。9月からの国会の最大のテーマの一つにしていけます。

○モンゴルの空は、どこまでも碧い

8月の前半は、海外の課題をこなしてきました。中国の北京から四川省で5日間、そしてモンゴルのウランバートルで2日間。その帰りに、再び中国の瀋陽から韓国のソウルを経由して、羽田に帰るまで12日間の旅となってしまいました。

日中関係が大事な時期、私たちの1ヶ月前の訪中で小沢代表が掲げた、中国共産党と日本の民主党の政策交流をするための恒常的な機構立ち上げの構想の具体化について、今回の訪中でさらに話をつけてきました。また、北朝鮮と中国との直接の交渉窓口になっている武大偉外務次官と情報交換をすることができました。

モンゴルでは、去年の東京に引き続き、「IPCNKR:北朝鮮の難民と人権に関する国際議員連盟」の三回目の総会を開催し、大成功に終わりました。アンゴラやナミビアなどのアフリカ勢やイギリスなどからも参加があって、韓国の相棒のファン・ウヨ議員と一緒に「次の開催地は、アフリカだ。」と張り切っています。

韓国ではソウルから少し離れて、韓国の拉致被害者家族会会長のチェ・ソンヨン氏や、横田めぐみさんの夫、金英男氏のお姉さんの金英子(キム・ヨンジャ)さんに会ってきました。ヨンジャさんは、マスコミや周囲の人たちからモミクチャにされたここ数ヶ月をふり返って、自分たちの意思とはまったくかけ離れた話が飛び交う現実に啞然としているようでした。横田さんのご両親にぜひ直接あって、第三者抜きのお話を直にしたいという訴えがありました。韓国の統一省の担当局長には、拉致を含めた北朝鮮の人権問題をぜひ六カ国協議のテーブルに載せる努力を韓国も日本と一緒にやって欲しいと強く要請をしました。

今回の旅で、一番強く印象に残ったのは、モンゴルの空。どこまでも碧いのです。